

政策分析シート（平成19年度）

政策名	伝統文化の継承と都市間交流の推進	政策No	09	部名	区民生活部	部長名	佐藤安夫	内線	2500
関連部名	教育委員会								
行政評価事業体系	分野	文化創造都市[]							
目的	区民が優れた芸術文化に触れる機会を拡充するとともに、区民の自主的な文化活動を促進する。また、国内・海外都市との幅広い交流をとおして、荒川区への愛着や多文化共生意識を醸成し、活力に満ちた地域社会の実現を目指す。併せて、区内に伝わる有形・無形の文化財を保存し、継承する。								
指標	政策の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明		
		16年度	17年度	18年度	19年度	目標値(28年度)			
	芸術・文化活動の状況	-	-	-	-	10%	自ら芸術文化活動を行っている区民の割合		
	芸術文化に対する意識	-	-	-	-	80%	荒川区の芸術文化振興に関する取り組みや文化施設に対する満足度		
	交流都市に対する区民の認知度	-	-	-	-	50%	イベント等の機会を利用し、調査を行う。		
	交流事業の認知度と評価	-	-	-	-	50%	同上		
	荒川ふるさと文化館利用者数	22,499	21,748	22,138	23,000	25,000	展示室観覧者 + 郷土学習室利用者		
（現状と課題）	<ol style="list-style-type: none"> 1 区民が優れた芸術文化にふれるよう、区内文化施設で文化芸術事業を実施するとともに、活動の場や機会の提供、活動費補助等を行い、区民の自主的活動を支援している。 2 区とACCの役割分担を明確にし効果的な芸術文化振興のあり方を検討する必要がある。 3 国内17都市、海外4都市と交流があるが、交流の深さには差がある。各都市の交流資源を掘り下げ、区民が主体となった交流事業を展開する必要がある。 4 区内には、荒川区の歴史や文化を伝える文化財、史跡が数多くあるが、区内全域を網羅する本格的な調査は行われていないため、建造物や近代遺産についての実態把握が必要である。 								
今後の方向性	[平成19年度]								
	<ol style="list-style-type: none"> 1 庁内PTにおいてACCのあり方について引き続き検討する。 2 荒川区芸術文化振興プラン策定のための懇談会を設置する。 3 交流都市について、交流の展望や目標を明確にし幅広い交流を行って行く。 4 区民の国際性と多文化共生意識を育むため荒川区国際交流協会に対する支援を強化する。 5 文化財保護推進員や史談会等の関係機関の協力を得て、区内の文化財等の実態把握に努める。 								
[平成20年度以降]									
<ol style="list-style-type: none"> 1 荒川区芸術文化振興策定に伴う懇談会の提言も踏まえ、庁内検討組織において荒川区芸術文化振興プランを策定する。 2 荒川区国際交流協会と連携をとりつつ、区民が主体となった国内・海外の都市との交流を進めていく。 3 文化財保護推進員への調査委託や史談会からの情報提供等により、区内の文化財等の実態把握に努めていく。 									

政策を構成する施策の分類			
施策名	政策推進のための分類		分類についての説明・意見等
	前年度設定	今年度設定	
芸術・文化の振興[09-01]	B	A	区のイメージや文化度はまちの魅力の大きな要素の一つである。自治体間競争が厳しさを増す中、国際交流の視点も取り入れた広い意味での芸術文化振興施策を展開する必要がある。
国内・海外都市との交流の推進[09-02]	A	A	区民の国際理解のために欠かせない施策であるとともに文化振興の観点からも重要な役割を担っている。

政策分析シート（平成19年度）

政策を構成する施策の分類			
施策名	政策推進のための分類		分類についての説明・意見等
	前年度設定	今年度設定	
伝統的文化の保存と継承[09-03]	C	C	荒川区の歴史や文化を伝える文化財、史跡、伝統的工芸技術を保存・継承していくことは重要であるため、継続して実施する。